

小学校歌唱共通教材の歌詞の定型詩構造に関する一考察

木 暮 朋 佳

美作大学・美作大学短期大学部紀要（通巻第56号抜刷）

論 文

小学校歌唱共通教材の歌詞の定型詩構造に関する一考察

The fixed-form verse structure in the lyrics in the textbooks commonly used at primary schools

木 暮 朋 佳

キーワード：小学校歌唱共通教材、定型詩、七五調、都々逸調 六五調、八六調、七調、五調

1. はじめに

小学校歌唱共通教材曲は西洋的な手法による和声やリズムそして楽器などを使って学習することが一般的であるが、それ以上に日本の音楽システムや楽器などを使って演奏される必要があると考える。それは素朴に日本語による日本の歌だからである。しかし、さらに論理的に音楽と日本語などの観点から、どれだけこれらの曲が日本的であるのか、日本の伝統文化と共通要素を持っているのかを明らかにできれば、その説得力はさらに力をもつと考える。

そこで、本研究では七五調に代表される歌詞の字数の配列のしかたについて小学校歌唱共通教材曲を分析することで、この命題に迫ることとする。ここでは、その配列のしかたを定型詩構造と呼ぶ。

2. 研究の対象

本研究の対象である現行小学校歌唱共通教材¹⁾は、文部省唱歌として成立した歌を中心として、わらべうたと平安時代及び江戸時代後期等を源流とする日本の歌で構成されている。その歌詞の成立も文部省唱歌に関してはその成立と同時に考えられ、その他の歌に関してもそれぞれの成立と同時か少し前の時期であると考えられる。わらべうたに関しては、他の日本の音楽の種目にも見られるように、時代やそれぞれの地域の

影響を受けて変わり、その成立自体も新しい可能性が高い。また、能の同一演目の歌詞が流派により微妙に、時に大きく違うように、確定したものではない。また、能に小書がついて歌詞が変わったり、付加することもあるように、豊かに変化することがわらべうたの特徴でもあるが、共通教材として歌詞が固定化している曲と同一に扱われるとこの特徴を失うこともあると考えられる。しかし、子どもたちがわらべうたから離反している現状から見て、これは上記のことがあってもわらべうたの代表として歌唱共通教材入りしていることは意義があると考えられる。

したがって、わらべうた2曲と「うさぎ」「さくらさくら」「越天楽今様」「子もり歌」は、歌詞に流動性という含みがあることを念頭に置くことにする。

3. 先行研究の検討

小学校歌唱共通教材曲の音楽的な分析に関しては、拙論文²⁾で、これらの曲が、陽音階、陰音階、四七抜き音階、二四抜き音階、四抜き音階といった日本音階又はそれに近い音階であるか、「ふじ山」や「冬げしき」などのように長音階でも四七（ファとシ）の使用頻度が少ない四七抜き音階に近いものであることを柴田南雄の分析法を使って明らかにした。つまり、ここでは、すべての小学校歌唱共通教材曲が日本音階も

しくはその影響を受けたものであると結論している。

小学校歌唱共通教材の歌詞の定型詩構造に着目した研究は、音楽教育分野では確認できないが、小学校歌唱共通教材ではない定型詩の分析は、文学分野の短歌や俳句、五七調の研究等に存在している³⁾。

4. 研究の目的

小学校歌唱共通教材曲の歌詞がどの定型詩で、どの程度、その定型詩の構造を踏まえているのかを明らかにすることを本論の主な目的とする。

このことを明らかにするのは、定型詩という日本語の字数の繰り返し構造が自由詩と比して日本で古くから根付いているからである。つまり、日本の伝統としてこのことは定着しており、小学校歌唱共通教材曲を演奏する場合の伴奏の形態と唱法や表現の工夫をする際に日本的である一つの論拠となるからである。それを視覚化する為に、定型詩と自由詩を双極として、個々の曲の位置を図表化して表すことも試みる。

5. 研究の方法

まず、伝統的な定型詩の種類とその字数の構造を確認する。その上で、個々の小学校歌唱教材曲の字数構造にあたる。そして、その定型詩の種別と新たな字数構造を持つものがあるかを確かめる。さらにその新たな字数構造のタイプとすでに存在する定型詩の字数構成の差の絶対値から距離を位置づけ、新たなタイプも含めた最も近い定型詩からの字数のズレを数値化する。その上で最終的に、その絶対値の大小によって伝統的な定型詩からの距離を表すことにする。

なお、8音や4音を基礎とするモーラの考え方が定型詩を音読化する場合に存在するが、その概念には立ち入らないので、混同を避けるために音数という用語は使わず、ここでは字数という用語で仮名にした時の音数を指すことにする。

5.1 伝統的な定型詩構造について

伝統的な定型詩は以下のようである。

長歌→5, 7, 5, 7, 5, 7, (3回以上) 7
反歌(短歌)→5, 7, 5, 7, 7
俳句→5, 7, 5
都々逸→7, 7, 7, 5
七五調→7, 5, 7, 5, 7, 5~
五七調→5, 7, 5, 7, 5, 7~

5.2 ユレの数値化

ユレの数値化にあたっては、字余りを「+」で、字足らずを「-」で表す。続く数値で曲全体の「字足らず」又は「字余り」の字数の合計を表す。

6. 小学校歌唱教材の定型詩構造

6.1 分析

1) うみ(1年) 七五調 ユレ指数±0

1. うみはひろいな(7) おおきいな(5)
つきがのぼるし(7) ひがしむ(5)
2. うみはおおなみ(7) あおいなみ(5)
ゆれてどこまで(7) つづくやら(5)
3. うみにおふねを(7) うかばせて(5)
いってみたい(7) よそのくに(5)

2) かたつむり(1年) 八五調 ユレ指数±0

1. でんでんむしむし(8) かたつむり(5)
おまへのあたまは(8) どこにある(5)
つのだせやりだせ(8) あたまだせ(5)
2. でんでんむしむし(8) かたつむり(5)
おまへのめだまは(8) どこにある(5)
つのだせやりだせ(8) めだまだせ(5)

3) 日のまる(1年) 七調 ユレ指数±0

1. しろじにあかく(7) ひのまるそめて(7)
ああうつくしい(7) にほんのはたは(7)
2. あおぞらたかく(7) ひのまるあげて(7)
ああうつくしい(7) にほんのはたは(7)

4) ひらいたひらいた(1年) 乱調

1. ひらいた(4) ひらいた(4)
なんのはなが(6) ひらいた(4)
れんげのはなが(7) ひらいた(4)

- ひらいたと (5) おもったら (5)
 いつのまにか (6) つぼんだ (4)
2. つぼんだ (4) つぼんだ (4)
 なんのはなが (6) つぼんだ (4)
 れんげのはなが (7) つぼんだ (4)
 つぼんだと (5) おもったら (5)
 いつのまにか (6) ひらいた (4)
- 5) かくれんぼ (2年) 六五調 ユレ指数+3
 1. かくれんぼするもの (9) よっといで (5)
 じゃんけんぽんよ (7) あいこでしょ (5)
 もういいかい (6) まあだだよ (5)
 もういいかい (6) もういいよ (5)
- 6) 春がきた (2年) 五調 ユレ指数±0
 1. はるがきた (5) はるがきた (5)
 どこにきた (5) やまにきた (5)
 さとにきた (5) のにもきた (5)
 2. はながさく (5) はながさく (5)
 どこにさく (5) やまにさく (5)
 さとにさく (5) のにもさく (5)
 3. とりがなく (5) とりがなく (5)
 どこでなく (5) やまでなく (5)
 さとでなく (5) のでもなく (5)
- 7) 虫のこえ (2年) 七五調 ユレ指数+7-0
 1. あれまつむしが (7) ないている (5)
 チンチロチンチロ (8) チンチロリン (6)
 あれすずむしも (7) なきだした (5)
 リンリンリンリン (8) リーンリン (5)
 あきのよながを (7) なきとおす (5)
 ああおもしろい (7) むしのこえ (5)
 2. キリキリキリキリ (8) こおろぎや (5)
 ガチャガチャガチャガチャ (8) くつわむし (5)
 あとからうまおい (8) おいついて (5)
 チョンチョンチョンチョン (8) スイッチョン (5)
 あきのよながを (7) なきとおす (5)
 ああおもしろい (7) むしのこえ (5)
- 8) 夕やけこやけ (2年) 七五調 ユレ指数+2
 1. ゆうやけこやけで (8) ひがくれて (5)
 やまのおてらの (7) かねがなる (5)
- おててつないで (7) みなかえろ (5)
 からすといっしょに (8) かえりましょう (5)
2. こどもがかえった (8) あとからは (5)
 まるいおおきな (7) おつきさま (5)
 ことりがゆめを (7) みるころは (5)
 そらにはきらきら (8) きんのほし (5)
- 9) うさぎ (3年) 乱調 (都々逸調
 ユレ指数+2-1)
 1. うさぎうさぎ (6) なにみてはねる (7)
 じゅうごやおつきさま (9) みてはねる (5)
- 10) 茶つみ (3年) 七調+都々逸調 ユレ指数±0
 1. なつもちかづく (7) はちじゅうはちや (7)
 のにもやまにも (7) わかばがしげる (7)
 あれにみえるは (7) ちゃつみじゃないか (7)
 あかねだすきに (7) すげのかさ (5)
 2. ひよりつづきの (7) きょうこのごろを (7)
 こころのどかに (7) つみつうたう (7)
 つめよつめつめ (7) つまねばならぬ (7)
 つまにゃにほんの (7) ちゃにならぬ (5)
- 11) 春の小川 (3年) 七調 ユレ指数±0
 1. はるのおがわは (7) さらさらいくよ (7)
 きしのすみれや (7) れんげのはなに (7)
 すがたやさしく (7) いろうつくしく (7)
 さけよさけよと (7) ささやきながら (7)
 2. はるのおがわは (7) さらさらいくよ (7)
 えびやめだかや (7) こぶなのむれに (7)
 きょうもいちにち (7) ひなたでおよぎ (7)
 あそべあそべと (7) ささやきながら (7)
- 12) ふじ山 (3年) 七五調 ユレ指数±0
 1. あたまをくもの (7) うえにだし (5)
 しほうのやまを (7) みおろして (5)
 かみなりさまを (7) したにきく (5)
 ふじはにつぼん (7) いちのやま (5)
 2. あおぞらたかく (7) そびえたち (5)
 からだにゆきの (7) きものきて (5)
 かすみのすそを (7) とおくひく (5)
 ふじはにつぼん (7) いちのやま (5)
- 13) さくらさくら (4年) 七調+都々逸調

ユレ指数-2

1. さくらさくら (6) のやまもさと (7)
みわたすがぎり (7) かすみかくもか (7)
あさひににおう (7) さくらさくら (6)
はなざかり (5)
 2. さくらさくら (6) やよいのそらは (7)
みわたすがぎり (7) かすみかくもか (7)
においぞいずる (7) いざやいざや (6)
みにゆかん (5)
- 14) まきばの朝 (4年) 七五調 ユレ指数±0
1. ただいちめんに (7) たちこめた (5)
まきばのあさの (7) きりのうみ (5)
ポプラなみきの (7) うっすり (5)
くろいそこから (7) いさましく (5)
かねがなるなる (7) カンカンと (5)
 2. もうおきだした (7) こやごやの (5)
あたりにたかい (7) ひとのこえ (5)
きりにつつまれ (7) あちこちに (5)
うごくひつじの (7) いくむれの (5)
すずがなるなる (7) リンリンと (5)
 3. いまさしのぼる (7) ひのかげに (5)
ゆめからさめた (7) もりややま (5)
あかいひかりに (7) そめられた (5)
とおいのずえに (7) ほくどうの (5)
ふえがなるなる (7) ピーピーと (5)
- 15) とんび (4年) 七五調+八調+五調
1. とべとべとんび (7) そらたかく (5)
なけなけとんび (7) あおぞらに (5)
ピンヨロピンヨロ (8) ピンヨロピンヨロ (8)
たのしげに (5) わをかい (5)
 2. とぶとぶとんび (7) そらたかく (5)
なくなくとんび (7) あおぞらに (5)
ピンヨロピンヨロ (8) ピンヨロピンヨロ (8)
たのしげに (5) わをかい (5)
- 16) もみじ (4年) 七調+都々逸調 ユレ指数±0
1. あきのゆうひに (7) てるやまもみじ (7)
こいもうすいも (7) かずあるなかに (7)
まつをいろどる (7) かえでやつたは (7)

やまのふもとの (7) すそもよう (5)

2. たにのながれに (7) ちりうくもみじ (7)
なみにゆられて (7) はなれてよって (7)
あかやきいろの (7) いろさまざまに (7)
みずのうえにも (7) おるにしき (5)
- 17) こいのぼり (5年) 七五調 ユレ指数±0
1. いらかのなみと (7) くものなみ (5)
かさなるなみの (7) なかぞらを (5)
たちばなかおる (7) あさかぜに (5)
たかくおよぐや (7) こいのぼり (5)
 2. ひらけるひろき (7) そのくちに (5)
ふねをものまん (7) さまみえて (5)
ゆたかにふるう (7) おひれには (5)
ものにどうぜぬ (7) すがたあり (5)
 3. ももせのたきを (7) のぼりなば (5)
たちまちりゆうに (7) なりぬべき (5)
わがみにによや (7) おのこごと (5)
そらにおどるや (7) こいのぼり (5)
- 18) 子もり歌 (5年) 八五調 ユレ指数+3-2
1. ねんねんころりよ (8) おころりよ (5)
ほうやはよいこだ (8) ねんねしな (5)
 2. ほうやのおもりは (8) どこへいった (6)
あのやまこえて (7) さとへいった (6)
 3. さとのみやげに (7) なにもらった (6)
でんでんだいこに (8) しょうのふえ (5)
- 19) スキーの歌 (5年) 八六調 ユレ指数+5
1. かがやくひのかげ (8) はゆるのやま (6)
かがやくひのかげ (8) はゆるのやま (6)
ふもとをめぐって (8) スタートすれば (7)
こゆきはまいたち (8) かぜはさけぶ (6)
かぜはさけぶ (6)
 2. とぶとぶおおぞら (8) はしるだいち (6)
とぶとぶおおぞら (8) はしるだいち (6)
いっばくかげなき (8) てんちのうを (7)
ストックかざして (8) われはかける (6)
われはかける (6)
 3. やまこえおかこえ (8) くだるしゃめん (6)
やまこえおかこえ (8) くだるしゃめん (6)

たちまちさえぎる（８）たにをばめがけ（７）
おどればさながら（８）ひちょうのこち（７）
ひちょうのこち（７）

20) 冬げしき（５年）六五調 ユレ指数+ 2

1. さぎりきゆる（６）みなとえの（５）
ふねにしろし（６）あさのしも（５）
ただみずとりの（７）こえはして（５）
いまださめず（６）きしのいえ（５）
2. からすなきて（６）きにたかく（５）
ひとははたに（６）むぎをふむ（５）
げにこはるびの（７）のどけしや（５）
かえりぎきの（６）はなもみゆ（５）

21) 越天楽今様（６年）七五調 ユレ指数+ 1

1. はるのやよいの（７）あけぼのに（５）
よものやまべを（７）みわたせば（５）
はなざかりかも（７）しらくもの（５）
かからぬみねこそ（８）なかりけれ（５）
2. はなたちばなも（７）におうなり（５）
のきのあやめも（７）かおるなり（５）
ゆうぐれさまの（７）さみだれに（５）
やまほととぎす（７）なのるなり（５）

22) おぼろ月夜（６年）八六調 ユレ指数± 0

1. なのはなばたけに（８）いりひうすれ（６）
みわたすやまのは（８）かすみふかし（６）
はるかぜそよふく（８）そらをみれば（６）
ゆうづきかかりて（８）においあわし（６）
2. さとわのほかげも（８）もりのいろも（６）
たなかのこみちを（８）たどるひとも（６）
かわずのなくねも（８）かねのおとも（６）
さながらかすめる（８）おぼろづきよ（６）

23) ふるさと（６年）六四調 ユレ指数± 0

1. うさぎおいし（６）かのやま（４）
こぶなつりし（６）かのかわ（４）
ゆめはいまも（６）めぐりて（４）
わすれがたき（６）ふるさと（４）
2. いかにいます（６）ちちはは（４）
つつがなしや（６）ともがき（４）
あめにかぜに（６）つけても（４）

おもいいずる（６）ふるさと（４）

3. ころろざしを（６）はたして（４）
いつのひにか（６）かえらん（４）
やまはあおき（６）ふるさと（４）
みずはきよき（６）ふるさと（４）

24) われは海の子（６年）七五調 ユレ指数± 0

1. われはうみのこ（７）しらなみの（５）
さわぐいそべの（７）まつばらに（５）
けむりたなびく（７）とまやこそ（５）
わがなつかしき（７）すみかなれ（５）
2. うまれてしおに（７）ゆあみして（５）
なみをこもりの（７）うたときき（５）
せんりよせくる（７）うみのきを（５）
すいてわらべと（７）なりにけり（５）
3. たかくはなつく（７）いそのかに（５）
ふだんのはなの（７）かおりあり（５）
なぎさのまつに（７）ふくかぜを（５）
いみじきがくと（７）われはきく（５）

6.2 分析結果

各曲の字数構造を調べた結果は表１に示す。その特徴は以下のものである。まず、伝統的な定型詩としては破格な字数ではあるが、一定の字数の組み合わせの繰り返しによるものが幾種類か確認できた。単独の字数を繰り返すものとしては、五調と七調があり、その合成形で最後に５字が来る七調＋都々逸調があった。２つの字数を繰り返すものとしては、七五調の変形として六五調と八五調、また、八六調や六四調も確認できた。七五調はやはり多数あったが、五七調は全くなかった。一定の字数の繰り返しを持たないものは乱調としたが、まとめ直すと表２のようになる。

6.3 考察

伝統的な定型詩は七五調だけであったが全体の３分の１を占めており、七五調は小学校歌唱教材にあっても最も有力な存在である。伝統的な日本の音楽にも時代を越えて広く存在しているので、最も日本的な定型詩と言えよう。また、七五調に類似した新た

表１ 「曲目別の調とそのユレ指数」

曲 名	学 年	調	ユレ指数	備 考
1) うみ	1 年	七五調	± 0	
2) かたつむり	1 年	八五調	± 0	
3) 日のまる	1 年	七調	± 0	
4) ひらいたひらいた	1 年	乱調	*	七五調のように、大→小を繰り返す。
5) かくれんぼ	2 年	六五調	+ 3	七五調でユレ+2-2とも考えられる。
6) 春がきた	2 年	五調	± 0	
7) 虫のこえ	2 年	七五調	+ 7 - 0	
8) 夕やけこやけ	2 年	七五調	+ 2	
9) うさぎ	3 年	乱調	*	5音の留、都々逸調とも考えられる。
10) 茶つみ	3 年	七調+都々逸調	± 0	
11) 春の小川	3 年	七調	± 0	
12) ふじ山	3 年	七五調	± 0	
13) さくらさくら	4 年	七調+都々逸調	- 2	
14) まきばの朝	4 年	七五調	± 0	
15) とんび	4 年	七五調+八調+五調	*	
16) もみじ	4 年	七調+都々逸調	± 0	
17) こいのぼり	5 年	七五調	± 0	
18) 子もり歌	5 年	八五調	+ 3 - 2	
19) スキーの歌	5 年	八六調	+ 5	
20) 冬げしき	5 年	六五調	+ 2	
21) 越天楽今様	6 年	七五調	+ 1	
22) おぼろ月夜	6 年	八六調	± 0	
23) ふるさと	6 年	六四調	± 0	
24) われは海の子	6 年	七五調	± 0	

表２ 「調別の所属曲目」

調	曲 名 & 学 年	計	%
五調	春がきた 2 年	1	4.2
七調	日のまる 1 年、春の小川 3 年	2	8.3
六五調	かくれんぼ 2 年、冬げしき 5 年	2	8.3
七五調	うみ 1 年、虫のこえ 2 年、 夕やけこやけ 2 年、ふじ山 3 年、 まきばの朝 4 年、こいのぼり 5 年 越天楽今様 6 年、 われは海の子 6 年	8	33.3
八五調	かたつむり 1 年、子もり歌 5 年	2	8.3
八六調	スキーの歌 5 年、おぼろ月夜 6 年	2	8.3
六四調	ふるさと 6 年	1	4.2
七調 + 都々逸調	茶つみ 3 年、さくらさくら 4 年、 もみじ 4 年、	3	12.5
七五調 + 八調 + 五調	とんび 4 年	1	4.2
乱調	ひらいたひらいた 1 年、 うさぎ 3 年	2	8.3

な定型詩として、七五調と一字違いの六五調と八五調、二字違いの六四調と八六調があったが、それぞれ「壱ズレ七五調」「弐ズレ七五調」と名付けて、七五調の大きなまとまりとしてとらえることにした。弐ズレ七五調の方が壱ズレ七五調よりズレの字数が多い分、七五調より遠い位置にあると認識する。七五調を半分程度含む「とんび」を含めて七五調に近いものは16曲となり、七五調の大きなグループに3分の2の曲が属している。

一方、単独の字数を繰り返す五調と七調も新たな定型詩であるが、これらを「単字数調」と名付けた。7字又は5字の繰り返しであり、字数自体は伝統的な定型詩と共通する字数である。また、七調の最後だけ5字になる七調+都々逸調は、五留七調という別名を付

した。ここには4分の1の6曲が属する。

残り2曲は乱調と分類した。しかし、「ひらいたひらいた」には、七五調に近い「大→小」の繰り返しというまとまりを感じることができる。また、「うさぎ」は歌詞が短く分析しにくい、5字で終わり、都々逸調とも考えられる。その場合は伝統的な定型詩である。

歌詞に流動性を持つと考えたわらべうた2曲と「うさぎ」「さくらさくら」「越天楽今様」「子もり歌」は、乱調もしくはユレ指数が±0ではなく、その流動性の片鱗がそこに表れていると考えられる。

以上の考察の上に立ち、伝統的な定型詩からの距離を表す表を表3として作成した。これは表の下に行くほど伝統的な要素が薄くなるわけだが、定型構造のな

表3 「伝統的な定型詩からの距離」

調		曲 名 (学年)				定型詩 伝統的 日本的 ↑	
七五調	七五調 (ユレなし)	うみ (1年)、ふじ山 (3年)、まきばの朝 (4年) こいのぼり (5年)、われは海の子 (6年)					
	七五調 (ユレ2以下)	夕やけこやけ (2年)、越天楽今様 (6年)					
	七五調 (ユレ3以下)	虫のこえ (2年)					
	七五調+八調+五調	とんび (4年)					
壹ズレ七五調	六五調 (ユレ3以下)	かくれんぼ (2年) 冬げしき (5年)	五留七調	七調+都々逸調 (ユレなし)	茶つみ (3年) もみじ (4年)	新たな定型	
	八五調 (ユレなし)	かたつむり (1年)		七調+都々逸調 (ユレ2)	さくらさくら (4年)		
	八五調 (ユレ5)	子もり歌 (5年)	単字数調	七調 (ユレなし) 日のまる (1年) 春の小川 (3年)			
弐ズレ七五調	六四調 (ユレなし)	ふるさと (6年)		五調 (ユレなし)	春がきた (2年)		↓ 西洋的 革新的 自由詩
	八六調 (ユレなし)	おぼろ月夜 (6年)					
	八六調 (ユレ5)	スキーの歌 (5年)					
	乱調	ひらいたひらいた (1年) → 字数の「大→小」の繰り返しはある。 うさぎ (3年) → 都々逸調とも考えられる。					
	定型構造 のないもの	該当なし					

い最下層の欄以外はかなり伝統的な色合いが強く、実際にはこの表の上に集中する形になると考えられる。

新たな定型詩を含み「ひらいたひらいた」も七五調に近いと考えれば、すべての曲が定型詩という日本の伝統的な手法に影響を受けた歌詞の作り方でできていることがわかった。小学校歌唱共通教材曲は定型詩かその影響を受けた歌詞の構造でできているのである。それは、古今集から短歌や俳句そしてそれを使った能や歌舞伎等へと続く日本に一貫する共通要素である。

したがって、これらの曲は日本的な様々な音楽システムや楽器で伴奏されることで、定型詩という日本的な歌詞の作り方と響応するのである。三味線や三線や琴といった楽器で、バタづけ⁴⁾や合いの手、装飾音を伴ったヘテロフォニックな手法や日本の伝統的な音楽の様々な種目の慣用句も挿入して演奏されることで、一つ一つの歌が新たな魅力を放ってくれると考えられる。また、リズムパターンも能楽や歌舞伎の囃子等に様々な伝統的なものがあるので、それらを使うととても豊かな表現になるはずである。歌詞に直接関わる唱法の点でも、日本の伝統音楽の様々な種目のコブシなどの装飾的な歌い方で、その表現はさらに生き生きと変化することができるのである。そして、これらの経験を積むと、すでに存在する伝統的な曲目自体にも直接的に親近感をもたらすことも可能なのである。

日本の音楽文化は世界一歴史が長く豊かで多様である。しかし、その素晴らしい特徴は十分には今に生かされていない。平安時代に雅楽が国風化した様に、日本人のアイデンティティを音楽文化の上でどう取り戻すかが今日の一番の課題である。その方向がどこであるかは未知数であるが、今こそ音楽教育は様々な方法と実践で日本のこれからの音楽をさらに豊かにするためにこういった舵取りをして行くべきなのである。

註

- 1) 平成元年の改訂から現行の平成20年の改訂まで、同一曲である。この曲目は本文に明らかである。
- 2) 木暮朋佳『小学校歌唱共通教材の日本音階に関する一考察～柴田南雄の分析法を中心に用いて～』

美作大学・美作大学短期大学部紀要第54号2009年

- 3) 遠山淳『日本語定型詩のリズム－五音と七音をめぐって－』国際文化論集第21巻, 桃山学院大学 pp.127-pp.140, 2000年 等
- 4) 歌の旋律と同時に同様に伴奏楽器が演奏することである。